令和6年度 第1回

「松本市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会議事録」

松本市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会事務局

1 開会

西村課長

本日は皆様大変お忙しい中をご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私は健康福祉部障がい福祉課課長の西村恵美でございます。私の方で進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日の分科会はおおむね1時間を予定しております。

本日都合により、北沢委員、前野委員、林委員が欠席でございます。

まず、廣瀬会長の方からご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ

会長

皆様、本日はお忙しい中障害者福祉専門分科会に出席いただきありがとうございます。障害のある方々が地域で安心して暮らしていくには、自分らしく活躍できる社会の実現が必要です。

本日、関係者の皆様の専門的な知見や現場の声をもとに議論いただき、施策の検討を進めていければと思いますのでよろしくお願いいたします。

西村課長

次に議事入ります。

ここからの進行は松本市社会福祉審議会審議会条例第6条および第7条の規定に基づきまして会長をお願いいたします。

3 議事

議長

それでは議事の方に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。本日の協議事項ではありますが、手元の資料にありますように協議事項は4件あります。

それではまず「第5次松本市障がい者計画の策定」について、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

高羽補佐

「第5次松本市障がい者計画の策定」について説明

議長

第5次松本市障害者計画の策定についてということで進め方等の内容を含めて、何かご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。アンケートについて、大体同じような形でやっていると思いますが、何か新たに計画していることはありますか。

高羽補佐 令和9年度施行をめどに手話言語条例を制定するというので、考えております。どのような条例にしていくかということも今回の計画に向けてアンケートをさせていただきますので、お願いしたいと考えています。

議長 それでは手話言語条例について少しご説明いただけたらと思います。

西村課長 私達は話をするとき言語を使います。これが聴覚障害者の方にとっては、手話が一番の言語です。聴覚障害者の方を大切に、今後も継続して残していかななくてはならないという趣旨に設定しているものになります。ただそれに関しての考え方としては手話だけではなくて、他に障害がある方もいらっしゃいますので手話だけではなくて包括的な条例を目指しているところではあります。

議長 おそらくこれから詰めていくような内容になるかと思いますが、来年の新たな取り組みの一つとして示していただきました。何か他にも今後、障がい者計画についてご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

杉山委員 今回のコミュニケーションに関してはやっぱりIT機器です。すごく進歩している。通訳のスマホ iPhoneがあれば、全く喋れなくても意思疎通ができる。手話の形に翻訳するとか、手話を言語とか、十分に情報収集して内容研究をしたうえでお願いします。

議長 例えば日常生活用具で他の市町村では、アイカメラがあります。視覚障害の方がカメラをつけて、それによってコミュニケーションを取り、誰が来たのかカメラで認識している。ドラマの世界でも実用化されている。支給している市町村もあるので、研究していただきながら進めていただければと思います。

議長 「第7期松本市障がい福祉計画・第3期松本市障がい児福祉計画の進捗状況」について事務局から説明をお願いします。

栗田係長・宮澤補佐 「第7期松本市障がい福祉計画・第3期松本市障がい児福祉計画の進捗状況」について説明

議長 現在の計画内容についてご意見等ありますでしょうか。

山崎委員 児童の放課後等デイサービスのところが百何十%増えているが、実際のところお母さんや保護者の皆さんの仕事ができるようにというニーズと保護者の仕事を考えると、月曜日から金曜日まで預けたいという思いもある反面、サービスを使わずに家で過ごしている。月曜日から金曜日まで働くことで使いたいって人たちにしてみると、行き先がなくてやっぱり困っている、その矛盾と現場としての思いがいつもある。どうしたらいいかなってという課題として残っています。

仲林係長 一部、預かりニーズでご意見出ましたとおり一定数いるものと承知しております。事業所におきましても、月曜日から金曜日までの利用としている事業所がある一方で、月曜日から土曜日まで広げている事業所もございます。そうするとどうしても人員配置の関係が課題になりまして、お子さんを安全にお預かりできる形で支援介助をしていただくために、事業所とも一緒に進めていこうと考えています。それから児童センターとも相談しながら両方使えるといいと、そういった個別のケースにも対応させていただいています。そういった中で一定数の伸びはございます。検診等による早期発見のものとか、就学後、保育園では良かったけど、学校に上がったときにうまく適用できなくてという新規での利用というものが増えておりますので、そういうところへもしっかり支援をしていきたいというふうに考えております。

議長 何か他にご意見等ありますでしょうか。西村さんお願いします。

西村委員 A型事業所について感じているのは、A型事業所は大変なので多機能事業所に切り替えるところが増えている。しかしA型事業所はかなり多いかなという印象も持っている。

議長 今、A型事業所について何かを把握をしていることはありますか。

栗田係長 A型事業所につきましては、現在関東の方ではだいぶ廃業になっているとは聞いている。市内でいいますと多機能に移行した事業所が一つで、今後A型事業所になると厳しいということで、関連会社の方でB型の事業所を新規でと聞いていますが、今のところ松本市内ではA型につきましては、令和6年度の報酬改定の中で、売上金額を上げないと継続していくの

は難しくなっている。人件費の上昇もあり、やはり廃業に追い込まれてしまう事業所は多い。松本市ではそこまで相談を直接受けている状況ではありません。また年度当初に売り上げの状況について、実績報告が上がってきますので、そちらを注視しながら福祉政策課とも協力し合いながら、確認をしていきたいと考えております。

岩田委員 A型事業所について、報酬改定と関係もあって数字に対して結構厳しい。通所者に障害を持った方で、休んだらもう次はこの日に来なさいという感じになる。利用者としては継続してやらなければいけないから、結局辞めるか我慢してやるかになってしまう。そこは国に現場の声としても上げていっていただけたらと思います。

議長 今年度の見込みとしてはどんな数字になりそうでしょうか。

栗田係長 数字はまだ支払額が確定していませんが、就労継続支援の方と、居宅の方については、右肩上がりで給付金の方は伸びている状況でございます。その就労継続支援については事業所も増えた。また、利用者のニーズも高いということで、利用者が増加している。この2年ぐらいで給付費が上がってはきています。事業所数も増えているという状況でございます。

白井委員 事業所数が増える、利用者が増えていることは、すごくいいことだろうと思います。そこで相談支援が数量を増やしている。新たな事業所が出てきていて、新たな利用者が出てくる。それから市のケースワーカーたちも苦労されていると思います。一生懸命に計画相談員を探している。今年度の報酬改定で相談支援のところは多少変わったが、まだまだ事業所運営には課題がある。国の方との連携とお願いが大事になってくると思います。

中村委員 通所している子どもで医療ケアが必要な重度心身障害の方の、そのお母さんたちは社会で働いている。医療ケアがあると預かっていただける事業所に地域性があって、北の方が少ないです。なぜか地域性で分かれてしまっている。訪問事業者もやっているのですが、移動支援を使うが、遠い方から医療センターへ医療ケアの方たちを乗せて長時間運転をしている。山を移動するのはとてもリスクも高いです。もう少し北の方に事業所ができるとお母さんたちがすごく助かるという声をよく聞きます。それと重度心身障害の方の送迎について、とても皆さん困っている。医療や吸引が必要になると、ヘルパー支援ではない。移動支援についても一緒に考えていきたい。

議長 それぞれの地域性、地域のバランスということも含めて検討していただきたいと思います。

中澤委員 重度心身障害の方や行動障害の方たち、特にマンツーマンでの支援が必要な方たちにとって、生活介護や放課後等デイサービスの数はまだ足りていないなという実感がすごくあります。それに伴って送迎も課題だと思います。放課後等デイサービスは事業所がガソリン代は取ってはいけないことになっている。そこでとても苦しい中、親御さんたちになるべく負担がないようにできたらいいなと日々思いながら、マンツーマン対応の方たちの送迎に対して、必要な方に必要なことが届くように感じています。

また、相談支援がこれで見ると児童の相談支援が突出して増えて、見込みよりも実績数が増えている。このままでは足りてない、限界が来ているのではないかと思います。

岩田委員 計画相談を探すのがすごく大変で、皆さんもいっぱい持ってらっしゃる。学校卒業時に合わせるとものすごい数になる。個人個人が当たって探す。これは逆に言えば不公平になるかなと思う。どなたでも平等に使えるということではないか。

香西委員 相談支援について、実際に人がいなくて、本当に難しいのかなと思います。

杉山委員 今年になって、全国的な講演会などで、介護の産業化という言葉が役所の方が言葉にされる。介護の産業化して、ここを強くやろうっていうのは、もう10年以上前から議論がありますが、政策として国や役所の方がしっかり言い出した。事業所の運営をもっと産業化しろという動きで、要するに民間活力を導入する。実態をもし把握されていたら教えていただきたいと思います。国の動きは、医療費削減、社会福祉の費用削減について、すごく強く出てくるだろうなと思う。

話題提供として、医療特化型の住宅型老人ホームです。介護の対象とする方は神経難病の方とがんのホスピス型の最後までお世話しますという方。呼吸器がついていても大丈夫という有料老人ホームです。

在宅医療の医師と24時間体制の訪問看護ステーションです。それで1日何回でも訪問看護ができるような体制を作ってお世話をする。この法人は関東エリアから大阪近畿までが非常に大きな福祉法人で県を越えて展

開をされている。要するに今、24時間訪問看護って、なかなか大変なので小さな事業所ではやりますって言えないところがある。現場の方たちの取り組みを、呼吸器がついている方、気管切開して吸引が必要な方、在宅医療でもなかなか難しい。これが介護の産業化っていうことで、障害者福祉の方にも施設の運営などもやっていく上は足腰のしっかりした、きちんとした援助もいただいて、サービスの構築ができればと思います。

中澤委員 放課後等デイサービスや就労継続支援事業、就労移行は、NPO法人や社会福祉法人ではないところの運営が増えていますか。

高羽補佐 もともと行政の方でサービスに入っていた、限定していた制度だったので、当時は社協や福祉公社でしかサービスを受けられなかった。それが契約の制度になって門戸開放されるようになって、民間の事業者が参入してきて、利用者がサービスを選べるようになった。そういう面では良くなってきたのだらうと思います。けれどもお話あったとおりで、その一方では、産業化という言葉になるのか何とも言えないです。門戸が開かれた頃はその強い思いから、事業に参入してきた方が多かった。時間の経過から経営色の強い事業所が増えてきているという印象はあります。

杉山委員 いつも私は、医療と介護に志のない方は入ってこないでくださいっていうことをいろんな方に申し上げます。ただ、民間の考え方、会社経営の考え方で効率的なものを求めるといふ部分もないと、全部公的な補助金でやるだけではいけないと思いますし、その辺のバランスだらうと思います。産業化すると、株式会社の株主に対して利益が出ないと、存在意義がなくなって、儲からないからいなくなる。公的な支えと活性化したものどうやって組み合わせるかです。また、その方たちだけに任せたら、悪い会社が現れます。

岩田委員 そういう不正に対して、あらゆる制度が厳しくなって提出書類がまた増えてくる、その書類を作成する時間を本来であれば利用者と触れ合う時間を奪うような悪循環になって、そこを取り締まるためにいろんな注釈付ける、そこに憤りを感じます。

議長 いかにかスタートしても社会サービスという位置づけ、考え方だとなかなか継続していかないし、事業者側の都合の良い業者だけが行動できるようなシステムで、事業所が増えたら利用者の方が選択できるサービスであり

続ける。やはり行政が必要なのかと改めて感じます。

中村委員 事業所を上手に選ばばいいと思います。うちはもう障害支援 20 年目の事業所になりますが、20 年前に始めたときには、本当に相談支援もなく、業者との一対一の支援が始まってきて、どんどん変わってきて、気持ち的にも制度的にもすごく苦労した。確かに参入してきた 24 時間 365 日やる業者が入ってきている。ただ、それを必要としている業者もいるから、うちみたいな小さなところでは抱えきれない。うまくバランスを取って事業を使っていけたらと思います。

栗田係長 「令和 8 年度松本市障がい児・者施設整備基本方針」について説明

議長 それでは今ご説明いただきましたが、昨年度と変わらずの内容で基本方針に基づいて示していただきましたが、何かご意見等ありますでしょうか。

杉山委員 先ほどお話ししました北の方は少なく南の方にある。これを分析できると理由はここかなと思います。

中村委員 学校の居場所の確保とかで、その近くで事業を展開する形が多いというのは確かにあると思いますし、またスタッフの確保のこともあります。

議長 それでは続きまして「日中サービス支援型共同生活援助事業所における評価について」事務局から説明をお願いします。

栗田係長 「日中サービス支援型共同生活援助事業所における評価について」説明

議長 「日中サービス支援型共同生活援助事業所における評価について」何かご意見等ありますでしょうか。

4 その他

議長 昨年と同じように 1 法人の規則となるとうした改善点のご指摘が中心になっていく。特徴的な取り組みとか改善ではなくもっと伸ばしてほしいというところも、なかなか難しいかなと思いますが、今後についてご意見をいただきながら審議会に繋げていければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは本日の協議事項は以上となります。

5 閉会

西村課長

議題にもございましたが来年度から第5次松本市障がい者計画の作成、また手話言語条例の制定についての業務が始まってまいります。

委員の皆様には引き続き専門的な立場から、ご意見をいただくようになると思いますが、引き続きよろしく願いいたします。

以上をもちまして本日の社会福祉審議会障害者福祉専門分科会を閉会といたします。

本日はありがとうございました。